

糖 尿 病 眼 科

1. 目的と特徴

最良の医療を実践する知識と技術を、本学の先進的・高度医療技術から研修するとともに、患者の立場を理解して視覚障害の窮地から開放させ、社会に貢献する使命感をもつ医師の育成を目指す。

2. 指導スタッフ

| | |
|----|------------|
| 教授 | 北野滋彦 |
| 講師 | 廣瀬 晶、福嶋はるみ |

3. 研修施設

基幹施設：東京女子医科大学糖尿病センター

研修協力施設：東京女子医科大学病院眼科、日本大学医学部附属板橋病院、東京女子医科大学東医療センター、公立昭和病院、江口眼科病院

4. 研修カリキュラム

A：一般目標

最良の医療を実践する知識と技術を習得し、患者の立場を理解して視覚障害の窮地から開放させ、社会に貢献する使命感をもつ医師の育成を目指す。

B：行動目標

- 1) 眼科診療に必要な基礎知識を習得し、臨床に応用する。
- 2) 眼科診療に必要な検査、処置、手術に習熟し、臨床に応用する。
- 3) コメディカルと協力し患者の問題点を解決する。
- 4) 患者、家族の訴えを真摯に聞き、患者の苦痛に思いやりを示す。
- 5) 患者、家族に病状や治療方針をわかりやすく説明する。
- 6) 医療安全管理の基本を説明し、実践する。
- 7) 病態を把握し、無駄のない検査、治療を実施する。
- 8) 治療方針について上級医、指導医と相談する。
- 9) 勉強会や症例検討会に参加して、質疑応答する。
- 10) 最新の医療情報を取得する。
- 11) 学会に参加し、発表するとともに、発表内容を論文として投稿する。
- 12) 医療記録（診療録、手術記録、病歴要約など）、診断書、報告書などを遅滞なく正確に記載、作成する。
- 13) 眼科手術を上級医、指導医のもと執刀する。
- 14) 眼科専門医を取得する。
- 15) 上記すべてに対して下級練士研修生を指導する。

C：年次研修スケジュールと研修内容

以下は基本的なスケジュールであり、変更となることがある。

研修1年次 前半 基本的な眼科診療技術を習得する

| | | |
|---------|----|--|
| | 後半 | 眼科研修プログラム施行施設での研修 |
| 研修 2 年次 | 前半 | 眼科研修プログラム施行施設での研修 |
| | 後半 | 外来診療、眼科検査、レーザー手術、外眼手術の執刀、内眼手術の助手 |
| 研修 3 年次 | 前半 | 外来診療、眼科検査、レーザー手術、外眼手術の執刀、内眼手術の助手、臨床研究の学会報告 |
| | 後半 | 研修施設での研修 |
| 研修 4 年次 | 前半 | 研修施設での研修 |
| | 後半 | 外来診療、眼科検査、レーザー手術、外眼手術、内眼手術の執刀、臨床研究論文投稿 |
| 研修 5 年次 | | 外来診療、眼科検査、レーザー手術、外眼手術、内眼手術の執刀、眼科専門医試験 |

D：週間予定

以下は基本的なスケジュールであり、変更となることがある。

外来日：毎週 3 日

手術日：毎週火曜日、金曜日の午前・午後

回診および症例検討会：毎週火曜日、金曜日の午前 8 時 10 分から

医局会：毎週金曜日勉強会終了後

勉強会：毎週金曜日手術終了後

E：評価

指導スタッフ、助教、上級練士、各施設の責任者および指導医、コメディカルから、3ヶ月ごと評価シートをもとに、到達目標の達成度の評価を受ける。手術に関しては、日本眼科学会専門医制度カリキュラムに準じて、手術件数の達成を目標として、内容のフィードバックを受ける。

5. 医療練士研修修了後の進路

医療練士研修修了後、東京女子医科大学糖尿病センター眼科に助教として就職を希望するものは、糖尿病センター長と医療練士制度委員会で協議し、その採否を決定する。

6. 学位

研究論文が掲載された後、主任教授との協議のもと、医学博士の学位の申請が可能である。臨床大学院入学者は 4 年で研究を終え、研究論文を投稿し学位を取得できる。

7. 専門医

日本眼科学会眼科専門医を期間中に取得する。日本眼科学会・専門医 <http://www.nichigan.or.jp>

8. 問い合わせ先

〒162 - 8666

東京都新宿区河田町 8 - 1

東京女子医科大学糖尿病センター眼科

医局長 関本 香織

TEL 03 - 3353 - 8111 内線 28813

FAX 03 - 3358 - 1941

東京女子医科大学糖尿病センターホームページもご参照ください。

<http://www.dm-net.co.jp/twmu>